

明日から始める 「性差医療」

性差とライフステージを考える

性差医学・医療 (Sex and Gender Specific Medicine) は、①生物学的性差 (sex difference)、②社会的性差 (gender difference)、③ライフステージによる内分泌環境の性差に配慮し、個々の患者により適した医療を提供することで、診療の質と精度の向上を目指すものである。個別化医療および精密医療の第一歩として、性差医学・医療は重要な役割をもつ。

本特集の企画・執筆が進行した 2024 年は、本邦に性差医療が導入されて四半世紀 (25 年目) の節目であったとともに、政府の方針や各基本計画の制定によって国レベルでの臨床・研究・医学教育における性差医学・医療推進の取り組みが開始した年となった。臨床では、国立成育医療研究センターに女性の健康のナショナルセンターとして 2024 年 10 月に開設された「女性の健康総合センター」が女性医療と性差医療に取り組む方針を示した。研究では、日本医療研究開発機構 (AMED) が「性差を考慮した研究開発の推進」の方針を 2024 年 8 月に公開した。医学教育では、日本医学教育評価機構 (JACME) が「日本医学教育評価基準 2025 年度版」カリキュラムの注釈欄に性差医療を「将来的に社会や保健医療システムとして必要になると予測されること」として入れる案を検討している。本案が決定すれば医学教育モデル・コア・カリキュラムとも連動し、今後、本邦でも欧米のように多くの医学部で性差医学を教える動きの加速が期待される。

こうした国レベルの性差医学・医療推進の動きに伴い、今後、性差医学・医療を系統的に学べる教材・教育コンテンツの作成とアップデート、普及が不可欠となる。満を持してタイムリーに発刊された本特集を、ぜひ多くの方々が手に取り、ご覧いただければと願う次第である。本特集は、初学者を含めて性差医学のアウトラインを興味

深く学べること、エキスパートの方々にも最新の性差医学知識をアップデートしていただけることを目指し、読み応えのある内容を心がけた。性差がみられる代表的な領域において、各分野の第一人者に性差のエビデンスを概説いただいた。また、診療のさまざまな場面において性差医学が果たす役割（性差への配慮）と活用も取り上げている。性差医学では、生物学的・社会的性差の考慮とともに、ライフステージへの配慮も重要であり、各項目において、性差に加えて、可能な限り年代やライフステージによる差（女性の場合は閉経前・閉経以降など）もふまえて解説をいただいている。

性差医学・医療を学ぶと、性差とライフステージの視点を得ることで、同じ疾患においても、これまで見えていた角度とは違う新しい局面が見えてくることを実感する。本特集を通じ、読者の皆様が性差とライフステージの新たな視点と気づきを得て、明日からの診療をブラッシュアップし、性差とライフステージを考慮したより精度が高い診療の実践へ繋げてくださることを願っている。



片井 みゆき

（政策研究大学院大学 保健管理センター）